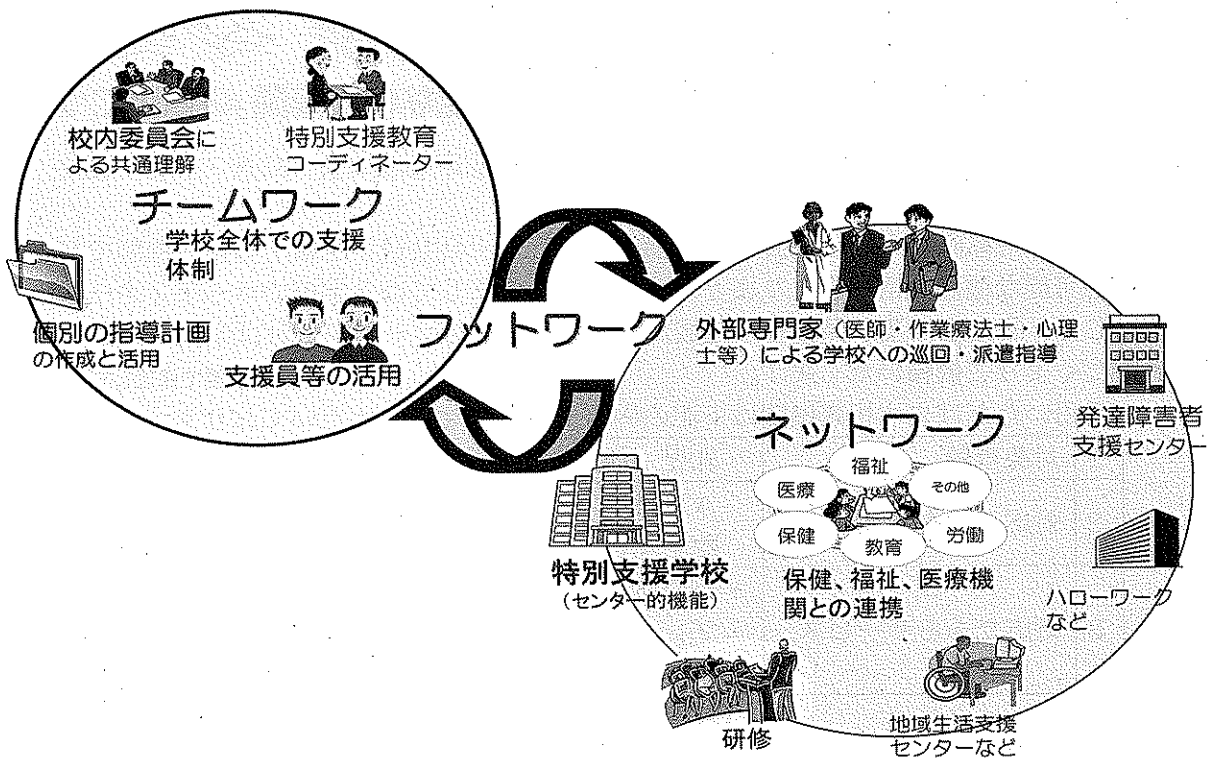


第3部

頼れるネットワークをめざして



第3部

特別支援教育推進のための「専門家チーム」への協力について

日本児童青年精神医学会

私たちは、従来から自閉症、注意欠陥多動障害（ADHD）など発達障害を中心に、子どもの精神科を専門にしてきた日本児童青年精神医学会と申します。会員数約 3000 名を有し医師をはじめ多くの専門職が参加しております。

当学会では、発達障害への対応については、医療、教育、心理、福祉などさまざまな分野での連携が必要と考えており、教育に関する委員会では、3年にわたって「特別支援教育」に関するシンポジウムを開催し、教育関係者をはじめ多くの参加者と勉強してまいりました。

また、この委員会では少なくとも3年以上当学会員である医師を対象に「専門家チームに關係する医師」の登録を行ってきました。

そして、この度、当学会では各都道府県・市区町村教育委員会の「専門家チーム」への活用にお役立ていただければと考え、趣旨に賛同する登録医師のリストを都道府県教育委員会あてお送りしましたので、ご活用いただければ幸いです。

なお、この件については、文部科学省初等中等局特別支援教育課とも相談していることを申し添えます。

* リストは府教委で保管しておりますので、協力を希望される市町村教育委員会は、府教委特別支援教育課へお問い合わせください。



特別支援教育における「発達障害に対応可能な相談機関」の活用について

京都府臨床心理士会 会長 森谷 寛之

今年度、京都府臨床心理士会では京都府臨床心理士会会員が所属する相談機関で発達障害に対応可能な機関の情報をとりまとめました。つきましては各学校でコーディネーターの先生はじめ、諸先生方及び保護者や地域からの情報提供のニーズがあれば学校をとおしご活用いただくようご依頼いたします。

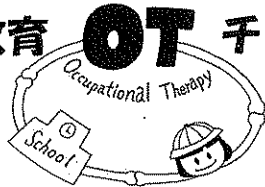
*リストは府教委で保管しております

ご活用いただけます相談機関は下記の内容で紹介させていただいております。

1	対象年齢	乳児 幼児 小学生 中学生 高校生 成人
2	対応可能な領域	ADHD LD 高機能自閉症など 視覚障害 聴覚障害 肢体不自由 病弱 知的障害 その他
3	対応できるサービス	・発達検査 アセスメント ・療育的対応 ・プレイセラピー心理相談 ・親への発達相談心理相談 ・親へのグループワーク ・ケース検討会講師など
4	他のスタッフ	(医師 言語療法士 理学療法士 その他)
5	申し込み方法など	(料金 待機情報などを含む)

なお、特別支援教育元年の今年度は京都府の特別支援教育が各校で着実に進められる中、すでに京都府臨床心理士会所属のスクールカウンセラーが学校の実態に合わせて仕事をさせていただいております。今後とも必要とされる多様なニーズに臨床心理士の立場でお応えできるように資質能力の向上に努める所存でございます。ますますのご支援とご協力をお願いいたします。

京都府作業療法士会 特別支援教育 OT チームです



特別支援教育OTチームとは

米国では多くの作業療法士が学校教育現場に勤務し、先生方と連携をとりながら発達障害がある子どもたちの生活や学びを支えています。しかし、残念ながら日本の教育現場では作業療法（OT）の有用性はあまり知られていません。OTチームは、先生方と子どもたちの「大変さ」や「頑張り」について考え、理解する一つの視点になりたいという想いによって生まれました。OTチームは子どもたちの

- ・学習（漢字が覚えられない、文字のバランスが悪い、板書が難しい、教科書の読み飛ばし、体育が苦手、手先が不器用など）
- ・行動（多動、離席、暴力、注意集中の難しさ、当番活動が苦手、新しい活動が苦手、授業中の姿勢が悪いなど）
- ・対人関係、コミュニケーション（一方的な関わり、周囲の状況を読めないなど）

などの様々な困り感に対してOTチームは先生方と連携し、子どもたちの生活の場である学校で支援を行っていくことを強く望んでいます。

平成19年度の活動

チーム誕生1年目となる平成19年度の、OTチームの主な活動は以下の通りです。

① 学校訪問

学校などから事例検討や校内研修会のご依頼をいただき、作業療法士を派遣しました。その内容についてはチーム内で会議をもち、事例検討の場合は報告書を学校に提出しました。

② 研修会の開催（保育士を含む教育関係者は無料）

先生方を主な対象として特別支援教育研修会を開催しました。162名の参加がありました。

③ パンフレットの作成・無料配付

学校での子どもたちの困り感に作業療法士はどのように考え、どのような支援が学校でできるのかについて、冊子を作成しました。学校、幼稚園、保育園の先生でご要望があれば、無料で配布しています（送料はご負担ください）。

平成20年度の活動予定

平成19年度に引き続き、学校訪問、研修会の開催、パンフレットの増刷、パンフレットを基にした書籍の出版を予定しています。平成20年度は、1回のみ訪問、研修会ではなく、1年間を通し、継続的な連携をしたいと考えています。

OTチームへの訪問依頼方法

作業療法士に相談をしてみたい、子どもの指導や支援と一緒に考えていきたい、校内研修などで作業療法の視点を学習したい、と思われた方は、OTチーム『ot_team_in_kyoto@yahoo.co.jp』に相談内容を明記の上、気軽にご一報下さい。



臨床発達心理士としての支援地域巡回相談への関わり

花園大学 渡辺 実(臨床発達心理士)

臨床発達心理士としての活動は、子どもの相談や支援において単に臨床的な観点だけでなく、子どもの育ちを見つめた発達の視点からの発達相談と支援を重視しています。特に通常学級に在籍する発達障害があると思われる子どもや、学習や集団への不適応を起こしている子どもや保護者、先生方の相談においては、発達検査等からの認知的特性をつかんだ育ちの観点からの相談や支援を心がけています。

例えば、発達障害を抱える子が3年生頃から学校に来られなくなったと言うお話しをお聞きます。同じように関わっていても子どもは日々成長していきます。3・4年生は学校にも慣れ従順な時期と思われがちですが、発達心理学では3・4年生は「9歳の峠」と言われ、子ども時代の内と外の大きな山を越そうとする時期であり、それだけ支援も必要になります。授業では理科や社会がはじまり、算数でも分数や小数など抽象的思考が求められ学習課題も高度になります。子ども自身も自立を模索し始め、自分一人では自立が難しいのでギャングエイジとして友人と徒党を組み、大人からの自立を計ろうとします。

そのような発達途上の子どもの生活や学習が豊かに行われるための考え方のひとつとして、大人が子どもと共に「問題解決学習」を行っていくことではないかと思っています。一方的に子どもの言動を規定するのではなく、どういう条件や環境があれば子どもが豊かに学校生活を過ごせ、学校はどのような準備ができるのか。子どももどのようなことなら受け入れられ、親はどのようにサポートできるのか。子どもの認知特性や発達状況を踏まえて、与えられた課題の問題解決学習を一緒に行うことではないかと思っています。

関西支部京都地区には約100名の臨床発達心理士が登録されています。発達の視点を持って日々成長していく子どもたちや保護者、先生方の相談にあたっていきたいと思っています。どうぞ御遠慮なく、お声をおかけ下さい。



京都府言語聴覚士会

京都府言語聴覚士会会長 三田村 啓子

言語聴覚士(ST)はことば、聴覚、コミュニケーションなどの援助を必要とする方々に専門的サービスを提供し、自分らしい生活をつくりあげることができるように支援する専門職です。摂食・嚥下の支援にも専門的に対応しています。

小児の分野では特別支援教育で着目されているLD、AD/HD、高機能自閉症をはじめ、知的障害、聴力障害、構音障害、肢体不自由その他、コミュニケーションの発達支援を必要とするさまざまな子どもたちに専門的サービスを提供しています。言語聴覚士は療育センター、就学前通園施設、病院、開業、学校などの教育機関、など様々な施設で勤務しています。

言語聴覚士は子どもたちや保護者の方々への直接的な専門支援の提供だけではなく、就学前のアプローチの内容を学校に引継ぎ、就学後は学校へと連絡を取りながら意見交換を行い学校との連携を従来から実施してきました。

乳幼児期から就学前、就学後、青年期、成人期と育っていく子どもたちのライフステージに沿ってコミュニケーションという切り口から支援できるのが言語聴覚士です。ことばとコミュニケ

ーションの発達、認知や対人関係の発達、感覚運動系の成熟や、音声言語の入力系、出力系の発達を基盤にしています。子どもたちは自分の持つ力と社会的状況のやりとりの中でコミュニケーション手段を発達させ、音声言語を獲得し、読み書きの学習を始めます。このいずれかの要因に課題があると「ことば・コミュニケーション」に支援の必要な状況が生じます。

そのような子どもたちに適切な教育的支援を実施するには、コミュニケーションの発達臨床にかかわる言語聴覚士と特別支援教育のシステムとが呼応しあうことが必要です。言語聴覚士が学校現場へ、学校の先生が言語聴覚のセラピーの場面へと、子どもたちの様子を見ながらの意見交換や先生方や保護者の方々にコミュニケーションの発達支援のお話をできればと思います。

ご相談などがありましたら、是非小児分野を担当する言語聴覚士の勤務する最寄りの施設にご一報ください。

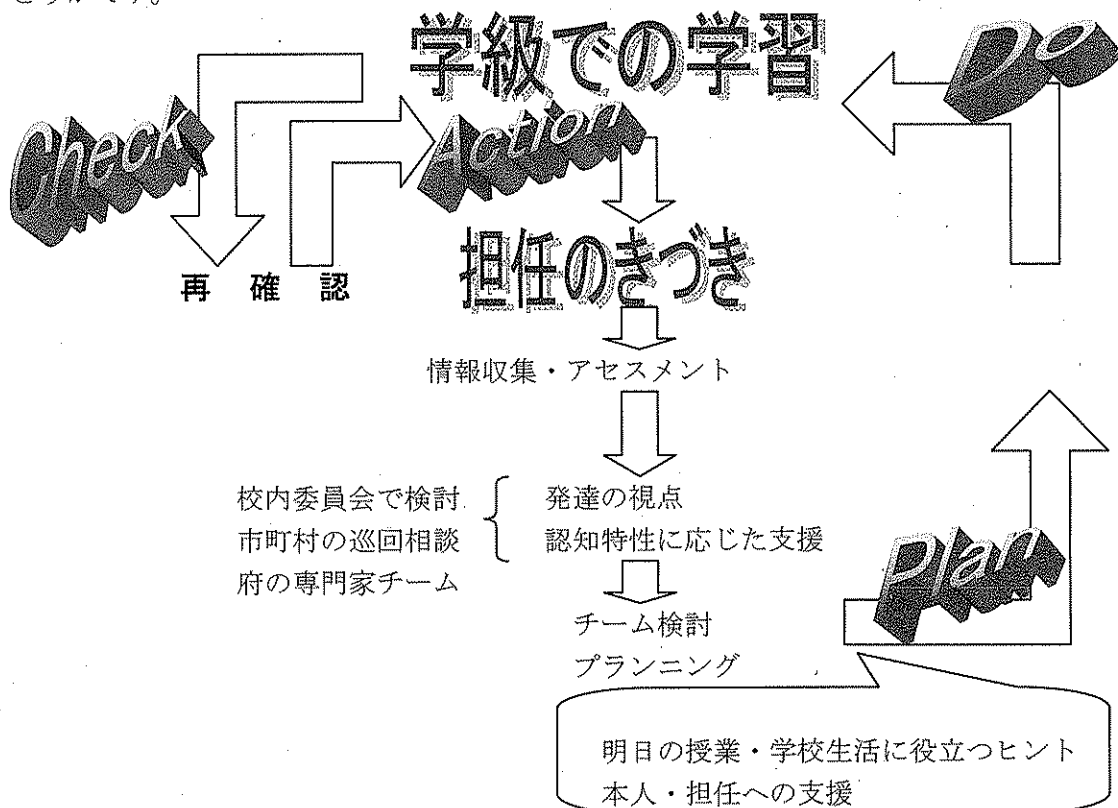
(京都府言語聴覚士会ホームページの施設一覧に詳しい内容が掲載されています。)

特別支援教育のPDCA

関係機関の活用

担任の気づき等をきっかけに、校内委員会での検討や外部の相談支援システムを活用し、一人一人の実態に基づいた個別の指導計画を作成（プランニング）します。

ここで、大切なのは、検討する内容が、明日からの授業や学校生活に役立つものであるかどうか、他機関や検査の紹介にとどまらず、本人や担任への支援であるかどうかです。



専門家チーム会議に参加して～専門家チーム会議での臨床心理士の視点から～

専門家チーム会議委員 臨床心理士 今野芳子

「京都府の特別支援教育の取り組みは全国的にも注目されている。」そんな感想が所属する学会のシンポジウムで出されていました。専門家チームに参加する一員としても、なるほどと思えます。年度ごとに変化するチームの構成と人数、かけられるケースの整理状況、検討後の個別教育支援計画作成への関与など、必ずはっきりとした変化があり先進性を感じます。出されてくるアセスメント票をとおり教育現場の取り組みの充実ぶりと、一方で残されている課題も感じます。

教育職を前歴とする臨床心理士として専門家チームに参加し5年経過しました。この間はチーム内で臨床心理士としてのアイデンティティを模索した期間でもありました。振り返ってみますと臨床心理士としてチームの中でここぞと発言してきたことは二つあります。

一つ目は関係性についてです。何はともあれアセスメント票を作成された先生や学校の実践に役立つ発言をさせていただきたい。だから「相談をされる人の立場に立って」「適切な助言であっても相手の方がどのように受け止められるか」は臨床心理士が大切にする視点です。さらに作成された先生のアセスメント票の中からポジティブな関係性とネガティブな関係性を整理します。先生と子ども、子どもと子ども、先生と保護者、学校と地域、家族関係、また家族は地域に味方があるのか等の関係性を、作成された先生ご自身をとりまく状況を理解する努力をします。

二つ目は総合性です。心理テストの結果と現実の子ども像とにずれはないか、このテストの効用と限界は何かなど、他の専門家が発言されている最中、ものすごい勢いで資料を読み解こうと集中します。さらにネガティブな関係性をしっかり頭におき、ポジティブな面に着目します。「家族のこの関係から将来は明るい」「得意なところは子どもの宝だから、ここから取りかかれる」「地域のスポーツ少年団でのかかわりの良さは生かせる」「中学校進学に向け、ここを生かし、高等学校の進路や大学、就職にここは結び付けられる」のではないかなどです。これを継続する中でネガティブな関係性は変わるかもしれないなど生涯にわたる総合的な視点も大切にしています。

5年間もチームで発言していると上記の視点はチーム全体の常識になりつつあると感じます。二つの視点から特別支援教育が進みつつある学校を見ると、様々な関係性がうまく機能し総合的に検討されているように思います。もちろん他の専門家がペーパーで出される心理テスト全般を見極める素養と、作品等からみえる子どもの心理的特徴の推察などは、関係性や総合性の基礎的素養であり必要となります。

最後になりますが、今や特別支援教育の充実は小学校から中学校へ、そして幼稚園・高等学校へと移りつつあります。学校でのアセスメントは、同一日時在同一場所での専門家チームの検討スタイルでは不可能です。したがって「時間差」をつけた専門家の見立てや発言を総合し、子どもの支援に結びつける人材が一層必要になっています。

「人材」こそが教育を進めるキーであるという当たり前のことを痛感します。学校に入ってみると、経験をつまめた先生方が育ち、若い方が力をつけてこられている姿を見て感動します。今後センター的役割を担う特別支援学校の先生方や関係機関の方々と共に臨床心理士としての視点と技にさらに磨きをかけたいと考えています。



学生支援員の研修について

調査研究運営会議委員 京都教育大学 佐藤克敏

1. 平成19年度における研修内容

- (1) イギリスのアシスタントの仕事例を参考とした支援員に求められること
- (2) 対象となる児童生徒の記録と評価
- (3) 現在学生が抱えている悩みに関する相談

これら3点を中心に実施した。ここでは(1)と(2)の概略について紹介する。

(1) イギリスのアシスタントの仕事例を参考とした支援員に求められること

研修の際に用いたイギリスのアシスタントの仕事例を表1に示した。具体的な支援方法を示しているわけではないが、アシスタントの仕事として子どもたちを指導・支援するだけでなく、担任教師や学校を援助することが重要であることが示されている。

学生にどこまで求めるかという点については、今後検討する必要があると考えられるが、「担任教師を援助する」、「学校を援助する」に見られるような、子どもの学習評価や進歩に関する記録、担任教師や他の専門家との連携、担任教師への定期的な報告、といった内容は、重要なポイントとなる。これらの内容は、教師がこれまでの指導の振り返りを行うことに対して支援するものであり、日々の実践の中で手が回りきらない内容である。この点を学生支援員が補助的にサポートすることによって、担任もしくは特別支援教育コーディネーターが、今後の対応の仕方について検討する資料を得ることができる。学生支援員は、実際に子どもの指導・支援にかかわることも重要であるが、担任や特別支援教育コーディネーターのサポート役としての役割を担うことによって、学校側のより主体的な取り組みにつながられるのではないだろうか。

表1 イギリスのアシスタントの仕事例

<p>1. 子どもを援助する</p> <ol style="list-style-type: none">1) 特別なニーズに関する書類に記述されている概念や用語を理解する。 これにより、実際に援助する子どもの特別なニーズを理解することができる。2) 子どもの特別なニーズに配慮する。 グループや個別的な学習状況で、子どもが効率良く学習することを助けることができる。 例えば、「子どもへの指示を明確にし、その指示内容を子どもに説明する」「子どもが教材や教具を使用できるかを確認する」「必要であれば、子どものやる気を高め、励ます」「言語や行動、読み、スペリング、書き、表現等子どもの苦手な部分を援助する」「生徒がひとつの項目も学習に集中し、達成することを援助する」「担任教師と連絡を取り合って、補足的な学習活動を工夫する」「子どもに関わるスタッフと肯定的な関係を確立させる」「子どもの自己評価を促し、高めるような方法を工夫する」など。 <p>2. 担任教師を援助する</p> <ol style="list-style-type: none">1) 特別なニーズのある子どもに関する適切な教育内容と方法を改善、工夫するために担任教師（必要であれば、他の専門家）を援助する。2) 担任教師や他の専門家と連携し、生徒の進歩や評価を記録する方法を工夫する。3) 子どもの学習評価、進歩について記録を残すことに貢献する。4) 子どもが必要とする援助内容と援助方法を評価することに加わる。5) 担任教師へ子どもの様子について定期的に報告する。 <p>3. 学校を援助する</p> <ol style="list-style-type: none">1) 適切であれば、家庭での養育者をつながりを持ち、学校と家庭の連携を発展させる。2) 求められれば、チームの他のメンバーへ子どもの援助に関して助言したり、お互いに相談し合ったりする。3) 子どもの進歩や評価に貢献する。4) アシスタントの仕事に関連する研修に参加する。5) 学校の諸手続きを知る。
--

(2) 対象となる児童生徒の記録と評価

(1)の内容に関連して、記録用紙の案を示しながら、記録する際に重要となる事柄について講義した。記録する際の重要点は、

①印象と事実を分けて書くこと

②子どもの行動についてだけを書くだけでなく、その前後関係を記述すること

③問題となる場面だけでなく、問題が生じなかった場面も記録しておくこと

など、特に行動問題の場合には、応用行動分析で用いられるABC分析を基に、行動の機能についてアセスメントすることが望ましいと考える。

実際には、記録の多くは学生の思いが詰まったものであり、記録を読みながら、状況を再度整理することが必要となることも多い。学生の記録しやすさも考慮しながら、記録のとり方について指導することが必要である。

表 2. 授業観察記録用紙の例 1 (教師—子どもの行動の関係)

活動	教員の配慮・支援	子どもの行動と対応
例：書く	板書の時に、全体に指示した後サインを出す	サインを見て板書を始めた。褒める。

表 3. 授業観察記録用紙の例 2 (気になる行動用)

活動	きっかけ	子どもの行動	周囲の対応と結果

2. 学生支援員における現状と課題—京都教育大学における学生とのミーティングより—

ミーティングに参加した学生は、8名(3回生：5名，4回生：3名)であった。全て小学校で活動した経験のある学生であり、内2名は特別支援学校でも活動していた。8名が一斉授業での特定の児童生徒等の個別の補助を行い、5名は一斉指導でのT.T.としての活動、また2名は別室での個別指導も行っていった。

ミーティング後のアンケートに記述された学生のニーズや疑問は、次のような内容である。

学生が困っていること

- ①気になる子どもへの関わり方や子どもとの接し方
- ②周囲の子どもを含めた対応(他の子の気が散らない程度に介入する、他の子が疑問に思わないようにするなど)
- ③授業内での目標の設定(どこまで手助けしていいのか、何を求めるのかなど)
- ④特別支援コーディネーターの先生や担任の先生との情報交換等の機会が少ない

ボランティアもしくは支援員として疑問に思うこと

- ①役割を与えてほしい
- ②教師がどのようなボランティアを必要としているのか、役割や意味を知りたい
- ③ボランティアが入っていない日の様子が知りたい(どのように入るのが効果的なのか、意味がある入り方なのか)

3. まとめ

以上、平成19年度に実施した学生支援員の研修内容と、京都教育大学の学生を集めて行ったミーティングにおいて示された学生のニーズや疑問について簡単に整理した。学生支援員の役割には、実際に児童生徒を指導することと同時に、担任もしくは特別支援教育コーディネーターが、今後の対応の仕方について検討する資料を提供することがあると考えられる。

学生支援員を有効に活用するためには

対象となる子ども、もしくは周囲の子どもも含めた接し方や理解といった基礎的なことだけでなく、次の事柄などが必要となるといえるだろう。

- ①子どもの実態に応じた対応のための情報交換
- ②活動する際の役割の明確化
- ③自身の対応が子どもたちに与えた結果の評価など
- ④学校側との情報交換や連絡・調整

コーディネーターの仕事・個別の指導計画作成のポイント

コーディネーターの1年（例）

月	校内・担任の動き	コーディネーターの動き
4月	<ul style="list-style-type: none"> 進級、クラス替え、学級開き 家庭訪問(下旬) 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の内容を新任へ伝達 保護者と新しい担任との仲介役をする。 新年度の方針、校内体制(*①)の提案 <p>前年度中に整理をすませておくと、スタートはスムーズです！また、年間通して、保護者と繋がっておくためにも、最初が肝心です。</p>
5月	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な子の把握(*②チェックリスト) →アセスメント票の作成 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストの配布、回収→支援の必要な子の把握(授業参観) →アセスメント票記入 校内研の開催→校内委員会にて支援の必要な子への支援内容、体制を組む。(*③個別指導計画の作成) →具体的支援の開始
6月	<ul style="list-style-type: none"> 校内研にて共通理解 →個別指導計画の作成(*③) 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 1学期のまとめ・評価(チェックリストの活用) 個人懇談 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会支援のチェックと1学期のまとめ、2学期への方針を立てる。 夏の校内研の準備
8月	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修 個別の指導計画の見直しと2学期の短期目標を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修 自主研修 <p>いつもアンテナを張り巡らせておくといいですね。1年通して研修です！自分をコーディネーターしてくれるスーパーバイザーを作っておくのもgoodです！</p>
9月	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、体育祭 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会(個々について、運動会での配慮や支援についても具体的にするとよい) <p>本番に併せて、リハーサルをさせるなど、個々のニーズに併せた支援プログラムを立てておくとも本人も楽！</p>
10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭、学習発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会(支援のチェック) 来年度の新入生のチェック(就学時検診)
12月	<ul style="list-style-type: none"> 2学期のまとめ、評価と3学期の目標設定(チェックリスト活用) 個人懇談 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会(支援のチェックと2学期のまとめ、3学期への方針を立てる。) 幼稚園、保育園等訪問計画
1月	<ul style="list-style-type: none"> 新入生体験入学(~2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会(支援のチェック) 幼稚園、保育園、小学校等訪問 <p>支援のチェックは常に！PDCAサイクルで行いましょう！そして、一人で抱え込まないこと。校内体制、関係機関との連携を大切に！</p>
2月		<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会(支援のチェック) 今年度の体制等総括と次年度の方針を立てる。 <p>年度末は大切です！クラス替えや担任が替わるなど、次年度に向けてしっかり引き継げるようまとめておきましょう。</p>
3月	<ul style="list-style-type: none"> 年度末総括 支援対象児個々のまとめと次年度への引き継ぎ事項をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会(支援チェック) 今年度の個々のまとめ、チェックリスト、アセスメント票、個別指導計画の整理と次年度への引き継ぎ事項の整理 新入生の保護者、園、学校との懇談、引き継ぎ 卒業生の個別の教育支援計画(*④)の作成と進学先との懇談、引き継ぎ

* 各校(園)の実状にあわせて活動プランを立てましょう。

* 校内委員会を校務分掌に位置づけ、特別支援教育コーディネーターが運営の要となります。

【個別の指導計画 通常学級用】〈作成例〉*各校での作成様式を大切に、参考にしてください。

児童・生徒名	年 組 ()	記 載 日	年 月 日
学 校 名		担 任 名	

本人・保護者の 願 い	(例)・自分のことが自分でできるようになってほしい。 ・学習に落ち着いて取り組めるようになってほしい。
----------------	--

学級経営案	*本児童生徒への支援・配慮で学級全体にいかせる内容、学級経営との関連について記入する。 (例)・本児が活躍する場面を作り、周囲の児童の理解につなげていく。 ・事前に次の活動について知らせ、見通しを持って取り組めるようにする。
役割分担	*支援体制の確認。本児童生徒に関わる者が複数いる場合に役割分担を整理し記入する。

専門機関(医療、 ことばの教室 等)からの情報	(例)・医療での診断、投薬について
その他	*他の項目に当てはまらないことで大切と思われる情報、本児童生徒の状況等について記入する。

<生活面、行動面での支援・配慮>

実態	目標	具体的な手立て	結果、手立ての評価
*本人の実態、状況について記入する。 (例)・身の回りの整理整頓ができない。	*できる限り具体的な目標を設定する。 ・使い終わったらすぐに元の場所に片付けるようにする。	*評価できるように具体的な手立てを記入する。 ・きちんとできているか確認をし、できていなければ声掛けをしていく。	*「目標」が適切であったか、「具体的な手立て」の効果はあったか。目標や手立ての変更の必要性等について記入する。 ・声掛けによって気をつけるようになってきたが、定着にはいたっていない。

<学習面での支援・配慮>

教科	単元・領域	実態	目標	具体的な手 立 て	結果、手立ての評価
*支援・配慮が必要な教科について記入する。					

【個別の指導計画 特別支援学級用】

〈作成例〉

*各校での作成様式を大切に、参考にしてください。

(学校 年 名前) 担任名 () 記載日 (年 月 日)

〈保護者の願い〉

〈機関からの情報〉

<p>*保護者からの聞き取りにより記入する。丁寧な聞き取りをする。</p>	<p>*心理検査等のアセスメントや医療機関からの情報を記入する。</p>
---------------------------------------	--------------------------------------

〈長期目標〉

<p>(生活・行動面)</p> <p>*保護者の願い、担任の願い、機関からの情報、以前の個別指導計画等を総合的に判断して長期目標を設定する。</p> <p>(例)・着替え、排泄等の基本的な生活習慣を身につけることができる。</p>	<p>(学習面)</p> <p>(例)・ひらがなを読んだり、書いたりすることができる。</p> <p>・10までの数の一対一対応ができる。</p>
--	---

〈短期目標・1学期〉

〈短期目標・2学期〉

〈短期目標・3学期〉

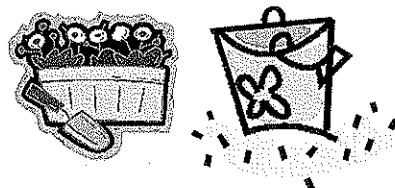
<p>*長期目標を受けて、学期毎に短期目標を設定する。</p> <p>(例)・長休みと昼休みには必ずトイレに行く。</p>	<p>(例)・学習課題に最後まで取り組む。</p>
--	---------------------------

〈指導計画と評価〉

教科・領域	児童生徒の実態	学期の指導のめあて・目標	指導の手立て	評価
<p>(例)</p> <p>(算数)</p> <p>・10円玉で50円まで数える</p>	<p>児童生徒の実態</p>	<p>*達成できたか評価可能な具体的な目標を記入する。</p> <p>(例)・10円と50円がわかり、10円で50円を数えることができる。</p>	<p>指導の手立て</p> <p>*手立ての評価ができるように具体的なものを記入する。</p> <p>(例)・お金の模型で10から50までの数え方を練習する。</p>	<p>評価</p> <p>*めあて・目標が適切であったか、手立てには効果があったか、また本人の変化について記入する。</p> <p>(例)・最初に一緒に練習すると、その後は1人でできる。</p>

個別の指導計画作成例

幼稚園での例



項	幼児の様子	短期目標	具体的な手立て	幼児の育ち・評価
生活面	・登園後の着替えをいやがる。	・登園後すぐに自分で着替えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・着替え表を作成し、できたら自分でシールを貼る。(好きなキャラクターのシールを使用) ・できたら一緒に確認し、ほめる。 ・着替えをする理由をわかりやすく説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いやがることなく自分から着替えることが多くなった。 ・遊びたいことがあると夢中になり、気持ちが向かないことがある。 ・スケジュールを示すことで、着替えたら遊べるということが理解できるように。

○ 評価欄で、現在の手立ての効果等を検証し、次の手立ての方向を示したケース

小学校での例



国語	実態	・漢字の書き取りが定着しない。 (部首の左右または上下の位置の間違いがおこりやすい)	長期目標	・正しい表記で漢字を使用することができる。
短期目標 (1学期)	指導の手立て・留意事項			評価
新出漢字が正しく書ける	<ul style="list-style-type: none"> ・部首カードで漢字を構成しながら練習する。 ・左は赤に、右は青に色分けして ・授業の導入時に、運動あそびを取り入れて、体レベルでも上下左右を意識しやすくする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・左右、上下等の構成で漢字が成り立っていることがわかるようになった。 ・量的な練習より、視覚化することや操作する方が覚えやすいことに本人も気づき始めている。 (どのような間違い方をするのか更に観察し、特別支援教育コーディネーターと相談する。)

○ 忘れないうちに「付せん」にメモし、個別の指導計画シートに貼り付けながら実践を進めていったケース

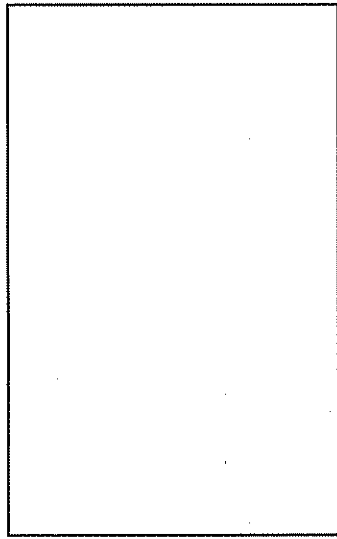
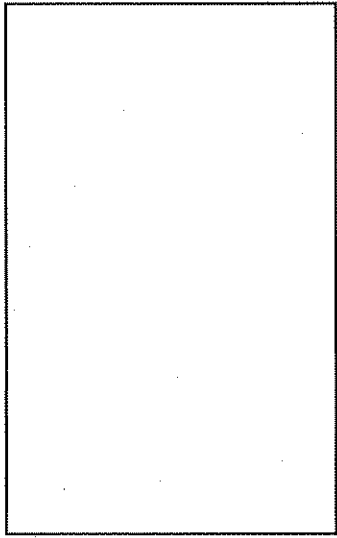
2008/ / 作成

医療・その他

個別支援シート
サポートチーム

資料③-3

通常学級



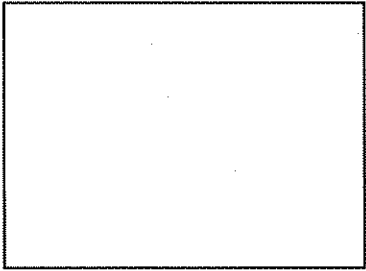
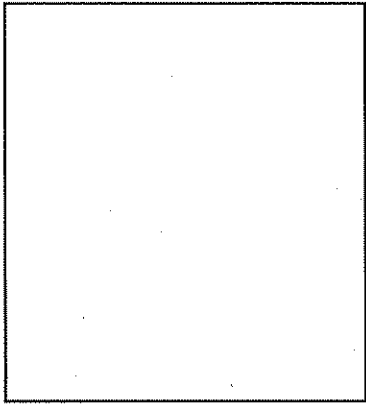
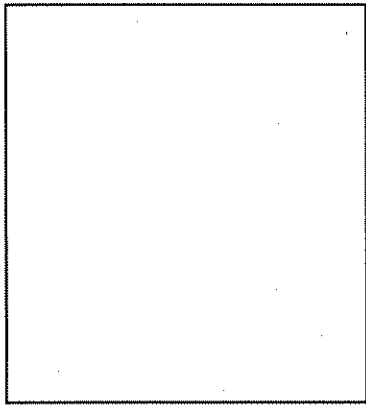
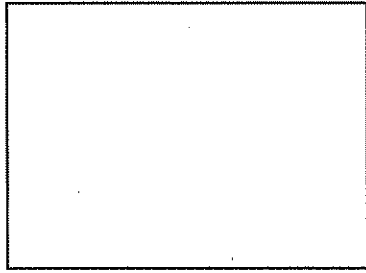
氏名

保護者

〇〇学級(特別支援学級)

通級指導, サポートルーム

校内



特別支援教育に関する研修

京都府では、総合教育センターをはじめ、教育局、市町村、各学校等で特別支援教育に関して様々な研修を実施しています。

京都府総合教育センター

昨年度に引き続き、特別支援教育コーディネーターとして必要最低限の知識と技能を習得するための「特別支援教育コーディネーター養成講座」、特別支援教育コーディネーターとしての資質・能力と実践力の向上を図るための「特別支援教育コーディネータスキルアップ講座」、更に専門的性の向上を図る「専門研修講座」等を実施しました。



◎平成19年度実施研修講座

【特別支援教育コーディネーター養成講座（3回講座）】

- | |
|--|
| ①LD、ADHD、高機能自閉症等の認知や行動の特性と教育的支援の在り方 |
| ・講義「LD、ADHD等の理解と支援」、実践発表、演習、研究協議 |
| ②アセスメント |
| ・講義「アセスメントに基づく個別の指導計画の作成とその評価」、演習Ⅰ「実態把握に基づくアセスメント」、演習Ⅱ「個別の指導計画の作成」 |
| ③支援体制 |
| ・講義「京都府における特別支援教育」、研究協議、演習「特別支援教育校内委員会の進め方」 |

※ 平成15年度から本年度までの全講座受講修了者数は、計959名（幼14名、小601名、中203名、高34名、特93名、その他14名）です。人事異動や退職により若干の変動があると思われませんが、1校（園）当たりの修了者数は幼稚園0.3名、小学校2.4名、中学校2.0名、高等学校0.6名、特別支援学校6.2名いることとなります。

【各教育局ごとの「特別支援教育コーディネータースキルアップ研修」】

総合教育センターの「出前講座」として位置付け、地域の課題に応じた研修内容を各教育局が中心となって企画、実施しました。

教育局	特徴と主な内容
乙訓	・子どもや障害理解に係る基礎的研修。校内でのコーディネーターの役割や活動について協議。
山城	・特に、中学校における特別支援教育の充実、コーディネーターの役割について協議。
南丹	・地域全体をコーディネートするための研修に位置付け、参加対象者を絞って実施。
中丹	・特別支援学校と連携した3回連続講座で幼稚園・保育所及び高等学校へ広がり重視。
丹後	・小・中学校の特別支援教育コーディネーターの活動充実のため、各校での取組を交流。

【専門研修講座】

講座名	内容又は講師	会場	
心理検査	心理検査の理解と活用等（WISC-Ⅲを中心に）	総合教育センター、北部研修所	
特別支援教育実践	一人一人の教育的ニーズに応じた教室における具体的指導		
特別支援学校	「自立活動」	各障害の基本的理解と指導	桃山、舞鶴養護
	「自閉症等指導」	自閉症児童生徒の認知や行動特性に応じた指導	
	「学習指導法」	京都教育大学 田中道治教授	京都教育大学
LD、ADHD等の理解とサポート	龍谷大学 友久久雄教授、滋野井一博准教授	龍谷大学	

教室におけるソーシャルスキルトレーニング*	皇學館大学 小谷裕実教授	皇學館大学
自閉症スペクトラムの発達	京都教育大学 佐藤克敏准教授	京都教育大学

特別支援教育を行うための体制整備を進めていく上で、特別支援教育に関する教職員の研修は今までも増して重要になっています。総合教育センターでも、特別支援教育コーディネーター養成講座を継続するなど特別支援教育体制の整備のための研修を充実させるとともに、専門研修の内容を充実させていきたいと考えています。

教育局・地域支援センター（特別支援学校内）

地域のニーズに応じた研修、コーディネーターの実践交流、特別支援教育に関する公開講座など、各教育局や各学校でも研修を企画し実施しています。

また、地域支援センターでは校内研修への講師派遣や教材等の貸し出しなども行っていますので、活用してください。



『ためしてみよう特別支援教育理解度コーナー』

以下の質問に○か×かでお答えください。回答と解説は次のページです。



- ① 自閉症の人達には対人関係の困難さがあるので、指導にあたっては、撫でる・抱きしめる等のスキンシップを十分に行い、対人関係の改善を図ることが大切である。 ○, ×
- ② 自閉症の子どもは、言葉だけではわからなくても、見れば理解できることがあるので、「してはいけない行動」を絵や文字で表し、机の上や教室の壁など目に付くあちこちの場所に貼り、望ましい行動を学習させることが大事である。 ○, ×
- ③ 自閉症の特性は知的障害の特性とは異なるため、知的障害を伴う自閉症の子どもは、知的障害学級に入級することは適切ではなく、情緒障害学級に入級することが望ましい。 ○, ×
- ④ 言葉がでにくくても、絵カードを手渡すことで相手に伝われば、それを受け止めてコミュニケーションの力を育てることが大事である。 ○, ×
- ⑤ 「個別の指導計画」をていねいに作成したので、これをPDCAサイクルで実践するためには、個別指導の時間を設けて、一対一で取り組まねばならない。 ○, ×



特別支援教育理解度チェックコーナー
回答と解説

- 設問① × 自閉症の人達には対人関係の困難さがあるので、指導にあたっては、撫でる・抱きしめる等のスキンシップを充分に行い、対人関係の改善を図ることが大事である。

解説

自閉症の人達の中には、触られることを不快に感じる等感覚的に過敏な場合があるので、スキンシップを行う際には、その程度や予告の必要性などを考慮することが大事です。
また、「スキンシップは良好な対人関係を結ぶための方法なのだ」と理解できないこともあります。相互のコミュニケーションをうまく機能させることやソーシャルスキルトレーニング等、個々の子どもに合わせた対応が大事です。

- 設問② × 自閉症の幼児児童生徒は、言葉だけではわからなくても、見れば理解できることがあるので、「してはいけない行動」を絵や文字で表し、机の上や教室など目に付くあちこちの場所に貼り、望ましい行動を学習させることが大事である。

解説

「～してはいけない」指示だけでは望ましい行動を考えることが難しいです。また、禁止項目ばかりが指示されることで、視覚情報による指示自体に嫌悪感を示しかねません。学習すべき行動の中でも、今優先的に取り組む行動について、望ましい行動を示すことが大事です。(例えば、「廊下は走らない」ではなく「廊下は右側を歩きましょう」等です。)

- 設問③ × 自閉症の特性は知的障害とは異なるため、知的障害を伴う自閉症の児童生徒は、知的障害学級に入級することは適切ではなく、情緒障害学級に入級することが望ましい。

解説

障害特性が違っていても、知的障害の児童生徒と同じ集団で学ぶことで、教科学習やコミュニケーション、社会性の力が培われることも多いです。個々の教育的ニーズに応じて集団編成することが大切です。

- 設問④ ○ 言葉が出にくくても、絵カードを手渡すことで相手に伝われば、それを受け止めてコミュニケーションの力を育てることが大事である。

解説

コミュニケーションは、言葉を出させることではありません。伝わるのが大切です。自分から伝えること、伝わった経験を積むこと、そのために有効な手段や場面を個々の子どもに応じて設定することが大切です。同時に、子どもの気持ちを受け止める私達自身がコミュニケーション能力を高めることこそ大事でしょう。

- 設問⑤ × 「個別の指導計画」をていねいに作成したので、これをPDCAサイクルで実践するためには、個別指導の時間を設けて、一対一で取り組まねばならない。

解説

「個別の指導計画」は「個別指導の計画」ではありません。ねらいを達成するために必要な集団や学習形態を考えながら取り組みましょう。

「特別支援教育体制推進事業」関係機関 問い合わせ先一覧



《医療・心理・発達関係》

名 称	問い合わせ先	備 考
作業療法士会	ot team in kyoto@yahoo.co.jp	直接お問い合わせいただけます。
日本児童精神医学会	京都府教育庁特別支援教育課 電話075-414-5835	御協力いただける内容が様々です。まず、当課にお問い合わせください。
臨床心理士会		
臨床発達心理士会		
言語聴覚士会		

《発達障害者支援センター》

名 称	問い合わせ先
京都府発達障害者支援センター はばたき	電話 0774-68-0645
発達障害者圏域支援センター	
(丹後圏域)障害者生活支援センター結(ゆい)	電話 0772-22-3915
(中丹圏域)福知山市障害者生活支援センター「青空」	電話 0773-24-4439
(南丹圏域)花ノ木医療福祉センター	電話 0771-23-0701
(乙訓圏域)乙訓ひまわり園地域生活支援センター	電話 075-935-7081
(山城北圏域)障害児(者)地域療育支援センターういる	電話 0774-54-3109
(山城南圏域)障害者生活支援センター「あん」	電話 0774-86-0508
京都市発達障害者支援センター かがやき	電話 075-841-0375

《親の会》

名 称	問い合わせ先
京都府障害児者親の会協議会	電話 075-414-1326
相談専用(京都府障害者相談センター)	電話 075-414-1322
(社)日本自閉症協会京都府支部	電話 075-813-5156 FAX 075-813-5157 メール askyoto@amber.plala.or.jp
京都LD親の会	メール HP: http://www006.upp.so-net.ne.jp/kyotoLDoyanokai/
京都ADHD親の会クローバー	メール kyoto-clover@mbr.nifty.com
ONLY ONEの会 高機能自閉症・アスペルガー症候群及び周辺の発達障害 京都親の会	FAX 020-4624-7246 メール info@only0-kyoto.net

《府立特別支援学校 地域支援センター》

地域支援センター名	学校名	電話番号	所在地
視覚教育相談室	盲 学 校	075-492-6733	京都市北区紫野大徳寺町27
京都府北部視覚支援センター	舞鶴分校	0773-75-1094	舞鶴市字南田辺83
京都府聴覚支援センター	聾 学 校	075-461-8121 075-461-8122(FAX)	京都市右京区御室大内4
京都府北部聴覚支援センター	舞鶴分校	0773-75-1094 0773-76-2711(FAX)	舞鶴市字南田辺83
ももやま地域支援センター	桃山養護学校	075-621-4208	京都市伏見区桃山町遠山50
向日葵が丘相談・支援センター	向日葵が丘養護学校	075-951-8361	長岡京市井ノ内朝日寺11
サポートJOYO	城陽養護学校	0774-53-7100	城陽市中芦原1-4
南山城相談支援センター	南山城養護学校	0774-72-7255	相楽郡精華町大字山田
府立丹波養護学校地域支援センター	丹波養護学校	0771-42-5185	南丹市八木町柴山坊田118
中丹養護学校教育支援センター	中丹養護学校	0773-32-0011	福知山市大字私市小字打溝8
府立舞鶴養護学校特別支援教育トータルサポートセンター	舞鶴養護学校	0773-78-3133	舞鶴市字堀4-1
丹後地域教育支援センター よさのうみ	与謝の海養護学校	0772-46-2770	与謝郡与謝野町字男山945

平成19年度「特別支援教育体制推進事業」委員名簿

調査研究運営会議

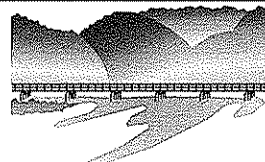
氏名	区分	所属・職名	
竹田 契一	学識経験者	大阪教育大学名誉教授、大阪医科大学 LD センター顧問	
友久 久雄		龍谷大学教授 <委員長>	
佐藤 克敏		京都教育大学准教授	
藤谷 幸彦	教育職員	宇治市立宇治小学校長 <副委員長>	
小出 信晴		京都府立南山城養護学校校長	
篁 雄巳	関係機関	京都府保健福祉部障害者支援室副室長	
青山 芳文	京都府教育委員会	京都府総合教育センター特別支援教育部長	
藤原 敬		乙訓教育局企画教育課長	
村上 浩志		山城教育局企画教育課長	
小笹 正人		南丹教育局企画教育課長	
舛井 満夫		中丹教育局企画教育課長	
岡田 佳之		丹後教育局企画教育課長	
伊家 正規		京都府教育庁指導部学校教育課総括指導主事	
山段 忠正		京都府教育庁指導部高校教育課指導主事	
松本 公雄		京都府教育庁指導部特別支援教育課長	
鋒山 智子		京都府教育庁指導部特別支援教育課指導主事	
川高 寿賀子		京都府教育庁指導部特別支援教育課指導主事	
朝比奈 覚順		京都市教育委員会	京都市教育委員会総合育成支援課首席指導主事

広域特別支援連携協議会

氏名	区分	所属・職名
友久 久雄	大学等	龍谷大学教授
小谷 裕実		皇學館大学教授
池上 直樹	保健・福祉・ 労働部門	京都府保健福祉部障害者支援室長
川村しげる		京都府保健福祉部こども未来室長
土家 篤		京都府府民労働部総合就業支援室長
吉岡 章		京都労働局職業安定部職業対策課長
向井仲和美		京都経営者協会専務理事
大塚 尚武	関係機関	京都府障害児者親の会協議会事務局長
後野 文雄	幼稚園・学校	舞鶴市立白糸中学校長（京都府特別支援学級等設置学校長会）
新司 英子		城陽市立富野幼稚園長（京都府公立幼稚園園長会）
藤谷 幸彦		宇治市立宇治小学校長（京都府小学校校長会）
牧崎 幸夫		宇治市立東宇治中学校長（京都府中学校長会）
谷野 二郎		京都府立山城高等学校長（京都府立高等学校長会）
竹岡 裕昭		京都府立盲学校長（京都府立特別支援学校長会）
石田 肇		市町村教育委員会
田中 秀明	府教育委員会	京都府中丹教育局長（教育局長会）
山口 恭一		京都府総合教育センター所長
松本 公雄		京都府教育庁指導部特別支援教育課長

専門家チーム委員兼巡回相談員

氏名	専門資格	所属・職名
有賀 やよい	医師（精神科医）	（精神科医）
岡田 俊	医師（精神科医）	京都大学附属病院神経科デイケア診療部医師
小谷 裕実	医師（小児科医）	皇學館大学教授
四方 あかね	医師（小児科医）	舞鶴こども療育センター小児科部長
加藤 寿宏	作業療法士	京都大学大学院医科研究科准教授
灘 裕介	作業療法士	花ノ木医療福祉センター作業療法士
今野 芳子	臨床心理士	京都文教短期大学講師
熊本 敬一		NPO法人
尾瀬 順次		乙訓ひまわり園生活支援センターセンター長
河野 照正	社会福祉士	地域療育支援センター「ういる」コーディネーター
樋口 ちづ子		工房グリーンフィールド施設長
荒樋 博利		花の既医療福祉センター相談係長
故金 佳代子		障害者生活支援センター結(ゆい) 相談員
小川 ひとみ	特別支援教育士	向日市立第6向陽小学校教諭
片山 加代子	特別支援教育士	長岡京市立長岡第七小学校教諭
安井 加代子	特別支援教育士SV、臨床発達心理士、特免2	宇治市立宇治小学校教諭
岡野 康子	臨床発達心理士、特別支援教育士	宇治市立平盛小学校教諭
堀 栄真	特別支援教育士、特免1	南丹市立園部小学校教諭
奥村 康枝	特別支援教育士SV	福知山市立昭和小学校教諭
森岡 伸一	特別支援教育士	舞鶴市立倉梯小学校教諭
九鬼 崇	特別支援教育士	京丹後市立峰山小学校教諭
土井 豊	特別支援教育士、特免2	与謝野町立三河内小学校教諭
青山 芳文	特別支援教育士SV、特免1	京都府総合教育センター特別支援教育部長
名内 美恵子	学校心理士、臨床発達心理士、特別支援教育士、特免2	京都府総合教育センター特別支援教育部研究主事
山本 雅哉	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士	京都府総合教育センター特別支援教育部研究主事
土井 恵二	歩行訓練士	京都府立盲学校教諭 地域支援コーディネーター
浅奥 秀子		京都府立盲学校舞鶴分校教諭 地域支援コーディネーター
細矢 義伸	特免1、特免1、自立（聴）	京都府立聾学校教諭 地域支援コーディネーター
芦田 雅哉		京都府立聾学校舞鶴分校教諭 地域支援コーディネーター
玉村 総枝	学校心理士、特専	京都府立桃山養護学校教諭 地域支援コーディネーター
和田 由紀子		京都府立向日が丘養護学校教諭 地域支援コーディネーター
村田 尚美	特別支援教育士、特免2	京都府立城陽養護学校教諭 地域支援コーディネーター
杉山 美加		京都府立南山城養護学校教諭 地域支援コーディネーター
高野 芳子	特免2、学校心理士、特別支援教育士	京都府立丹波養護学校教諭 地域支援コーディネーター
南田 高典	特免	京都府立中丹養護学校教諭 地域支援コーディネーター
荒木 淳子	特別支援教育士、言語聴覚士	京都府立舞鶴養護学校教諭 地域支援コーディネーター
中西 満壽美	特免2	京都府立与謝の海養護学校教諭 地域支援コーディネーター
鋒山 智子	特別支援教育士SV、臨床発達心理士、養免2	京都府教育庁指導部特別支援教育課指導主事
川高 寿賀子	特免2、臨床発達心理士	京都府教育庁指導部特別支援教育課指導主事



支援地域巡回相談員

◆乙訓教育局(向日が丘養護学校相談支援チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
服部 春生	医師(小児科、小児神経科)	向日が丘養護学校校医
郷間 英世	医師(小児神経科)	奈良教育大学教育学部・教授
西村 信一	医師(精神神経科)	向日が丘養護学校校医
才村 泰生	医師(精神神経科)	長岡病院・地域連携推進室長
加藤 寿宏	作業療法士	京都大学大学院・准教授
田中 道治		京都教育大学教育学部・教授
渡辺 実	臨床発達心理士	花園大学社会福祉学部・准教授
高木 恵子	臨床発達心理士	洛西愛育園・園長
河原 隆司		乙訓福祉圏域GM
尾瀬 順次		乙訓ひまわり圏地域生活支援センター・センター長
清水 里美	臨床心理士	長岡京市教育支援センター・教育相談員
西野 美穂		長岡京市社会福祉協議会・コーディネーター(大山崎町・長岡京市担当)
盛永 俊弘	学校心理士	乙訓教育局・総括指導主事
北村 忠彦		乙訓教育局・指導主事
藤井 久雄		向日市教育委員会・指導主事
小森 信幸		長岡京市教育委員会・指導主事
中尾 和子		大山崎町教育委員会・指導主事
小川 ひとみ		向日市立第8向陽小学校(通級担当) 市特別支援教育コーディネーター
片山 加代子		長岡京市立長岡第七小学校(通級担当) 市特別支援教育コーディネーター
尾関 清		大山崎町立大山崎中学校・町特別支援教育コーディネーター
土永 勝		向日市立勝山中学校(通級担当)
貴田 由理		長岡京市立長岡第三中学校(通級担当)
長藤 登		向日が丘養護学校・副校長 地域支援センター長
安福 陽一		向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部) 地域支援コーディネーター
森山 正博		向日が丘養護学校・教諭(就修学相談部) 地域支援コーディネーター
和田 由起子		向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部) 地域支援コーディネーター
後藤 研也		向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
棚田 光枝		向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
大石 ゆかり		向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
吉村 吟子	臨床発達心理士、言語聴覚士、特別支援教育士	向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
藤澤 和子	言語聴覚士、臨床発達心理士	向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
梶原 尚子	言語聴覚士、臨床発達心理士	向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
堀部 好一		向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
山内 壺二	特別支援教育士、言語聴覚士、学校心理士	向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
野畑 光代		向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
広瀬 隆彦		向日が丘養護学校・教諭(地域支援相談部)
真殿 尊子		向日が丘養護学校・講師(地域支援相談部)

◆山城教育局北部(宇治・八幡)(桃山養護学校相談支援チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
渡辺 実	臨床発達心理士	花園大学社会福祉学部・准教授
安井 加代子	特別支援教育士SV、臨床発達心理士	宇治市立宇治小学校・教諭(通級担当)
赤野 秀実		宇治市立旗島中学校・教諭(通級担当)
上田 敦子		桃山養護学校・教諭(療育)
辻 喜朗		桃山養護学校・教諭(療育)
大東 弘明		桃山養護学校・教諭(療育)
小柳 あゆみ		桃山養護学校・教諭(療育)
玉村 総枝	学校心理士	桃山養護学校・教諭(療育) 地域支援コーディネーター
谷 早苗	臨床発達心理士	桃山養護学校・教諭(療育)
東 明美		桃山養護学校・教諭(運動機能)
大坂 誠		桃山養護学校・教諭(運動機能)
加藤 良恵	言語聴覚士	桃山養護学校・教諭(言語)
納橋 志津子		桃山養護学校・教諭(言語)
小林 綾	作業療法士	宇治武田病院
竹村 隆太	医師(精神科)	竹村診療所・理事長
石川 理	医師(整形外科)	石川整形外科医院・院長、桃山養護学校校医
廣兼 元太	医師(精神科)	廣兼医院・院長、桃山養護学校校医
小谷 裕実	医師(小児科)	皇皇館大学社会福祉学部・教授
坂見 由美子		桃山養護学校・養護教諭
神崎 昌美		桃山養護学校・養護教諭
伊戸 貴恵		桃山養護学校・看護師
荒木 穂積		立命館大学大学院応用人間発達研究科・教授
田中 真介	応用心理士	京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授
岡野 康子	特別支援教育士、臨床発達心理士	宇治市立平盛小学校・教諭(通級担当)
関口 佳美	特別支援教育士	八幡市立中央小学校・教諭

今泉 祥子	臨床発達心理士、言語聴覚士	桃山養護学校・教諭
森田 薫	臨床発達心理士	佛教大学・講師
伊藤 勝敏		府立桃山学園・園長
西山 治		宇治共同作業所・所長
若山 正治		八幡市・京田辺市・井手町・宇治田原町障害者生活支援センターやまびこ・所長
衣笠 照彦		子ども発達支援センター・所長
戸田 幸彦		かんでんエルハート・参与

◆山城教育局南部(南山城養護学校相談支援チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
有賀 やよい	医師(精神科)	府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院神経内科・嘱託医
今野 芳子	臨床心理士	京都文教短期大学・講師
東 敦子		元南山城養護学校教諭(療育指導専任)
傍島 規子		相楽圏域障害者総合相談支援センター・ゼネラルケアマネージャー
須河 浩一		障害者地域生活支援センターいづみ
佐藤 一代	特別支援教育士	城陽市立寺田南小学校教諭(通級担当)
濱田 美春		城陽市立南城陽中学校・教諭(通級担当)
井関 真理子		木津川市立木津小学校・教諭(通級担当)
宮原 麻美	特別支援教育士	木津川市立木津中学校・教諭
西村 勝彦	特別支援教育士	京田辺市立田辺小学校・教諭(通級担当)
生駒 尚子		久御山町立東角小学校・教諭(通級担当)
山本 たまき		井手町立井手小学校・教諭
一瀬 智		宇治田原町立維孝館中学校・教諭
亀谷 奈津子	特別支援教育士、臨床発達心理士	和東町立和東中学校・教諭
新谷 裕美		精華町立精華台小学校・教諭
河口 弘信		笠置町教育委員会・指導主事
渡部 浩三		南山城養護学校・副校長 地域支援センター長
白柳 拓保		南山城養護学校・教諭(特別支援部・療育指導専任) 地域支援コーディネーター
杉山 美加		南山城養護学校・教諭(特別支援部) 地域支援コーディネーター
奥西 扶美子		南山城養護学校・教諭(特別支援部) 地域支援コーディネーター
梅田 十三雄		南山城養護学校・総括主事
村上 英美子		南山城養護学校・教諭(特別支援部)
篠原 まどか		南山城養護学校・教諭(特別支援部)
南部 えり		南山城養護学校・教諭(特別支援部)
西山 剛司	学校心理士、自閉症スペクトラム支援士	南山城養護学校・教諭(特別支援部)
小角 令子		南山城養護学校・教諭(特別支援部)
春名 史佳		南山城養護学校・教諭(特別支援部・療育指導専任)
鶴谷 園子	学校心理士	南山城養護学校・教諭(特別支援部)
泉澤 榮一		南山城養護学校・教諭(特別支援部)
相馬 裕一	心理検査士 教育カウンセラー 自閉症スペクトラム支援士	南山城養護学校・教諭(特別支援部・療育指導専任)
家田 雅彦		南山城養護学校・教諭(運動機能指導専任)
北森 仁		南山城養護学校・教諭(運動機能指導専任)
安岡 瞳		南山城養護学校・教諭(運動機能指導専任)
宮崎 清隆		南山城養護学校・教諭(運動機能指導専任)
石川 喜美子		南山城養護学校・教諭(運動機能指導専任)
久保 瑞江		南山城養護学校・教諭(言語指導専任)
羽野 真子		南山城養護学校・教諭(療育指導専任)
中熊 玲子		南山城養護学校・教諭(療育指導専任)
北川 雅子		南山城養護学校・教諭(療育指導専任)
柳原 重治		南山城養護学校・教諭(療育指導専任)
玉置 登代		南山城養護学校・教諭(就学相談部)

◆南丹教育局(丹波養護学校相談支援チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
小谷 裕美	医師(小児科)	皇學館大学社会福祉学部・教授、花ノ木医療福祉センター
高野 美由紀	医師(小児科)	兵庫教育大学教育学部・講師、花ノ木医療福祉センター
津川 麻子	医師(精神科)	花ノ木医療福祉センター
前林 尚絵	医師(精神科)	花ノ木医療福祉センター
浅野 武男	心理判定員	花ノ木医療福祉センター
泉田 環	心理判定員	花ノ木医療福祉センター
灘 祐介	作業療法士	花ノ木医療福祉センター
板垣 正樹	作業療法士	花ノ木医療福祉センター

高木 恵子	臨床発達心理士、自閉症スペクトラム支援士	洛西愛育園・園長
今野 芳子	臨床心理士	京都文教短期大学・講師
西村 清次		元城陽養護学校長
沼津 雅子		南丹圏域障害者総合相談支援センター 結丹 ゼネラルケアマネジャー
荒樋 博利		花ノ木医療福祉センター コーディネーター
小崎 由美子		児童デザイナー事業つくし園・施設長
木村 恵美子		京都府南丹保健所・保健室健康支援担当副室長
丹治 和美		京都府南丹保健所・保健室健康支援担当主任
山川 秀一		亀岡市立亀岡小学校・教諭(通級担当)
尾関 恵美子		亀岡市立亀岡小学校・教諭(通級担当)
田端 順子		亀岡市立亀岡小学校・教諭(通級担当)
森田 扶美代	特別支援教育士	亀岡市立千代川小学校・教諭(通級担当)
吉田 昌夫		亀岡市立東輝中学校・教諭(通級担当)
森 節子	特別支援教育士	南丹市立園部小学校・教諭(通級担当)
堀 栄真	特別支援教育士	南丹市立園部小学校・教諭(通級担当)
菅生 哲二	特別支援教育士SV	南丹市立宮島小学校・教諭(通級担当)
関 典子	特別支援教育士	南丹市立園部中学校・教諭(通級担当)
小泉 良一		丹波養護学校亀岡分校、副校長
平岡 克也		丹波養護学校・総括主事 地域支援センター長
高野 芳子	特別支援教育士 学校心理士	丹波養護学校・教諭 地域支援コーディネーター
矢澤 治	臨床発達心理士	丹波養護学校・教諭(自立活動部療育担当) 地域支援コーディネーター
藤田 敦子		丹波養護学校・教諭 地域支援コーディネーター
西村 三枝子		丹波養護学校・教諭
岡田 知子		丹波養護学校・教諭(自立活動部療育担当)
小磯 良子		丹波養護学校・教諭(自立活動部療育担当)
岩西 誠二		丹波養護学校・教諭(自立活動部療育担当)
林 尊子		丹波養護学校・教諭(自立活動部療育担当)
岡 綾子		丹波養護学校・教諭(自立活動部療育担当)
野際 裕子	特別支援教育士	丹波養護学校・教諭(自立活動部言語担当)
蔭山 圭子		丹波養護学校・教諭(自立活動部言語担当)
馬場 月美		丹波養護学校・教諭(自立活動部言語担当)
川崎 明德		丹波養護学校・教諭(自立活動部機能訓練担当)
高橋 謙二		丹波養護学校・教諭(自立活動部機能訓練担当)
高橋 美明		丹波養護学校・教諭(自立活動部機能訓練担当)
永田 学		丹波養護学校・教諭(自立活動部機能訓練担当)
石倉 由巳		京都府立丹波養護学校亀岡分校・養護教諭

◆中丹教育局(舞鶴市以外)(中丹養護学校相談支援チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
全 有耳	医師(小児科)	京都府中西丹保健所・保健室担当係長
谷 康洋	医師(精神科)	福知山もみじヶ丘病院クリニック「まほら」
牧 陽一	医師(整形外科)	牧整形外科医院・院長(学校医)
朝比奈 恭子	臨床心理士	スクールカウンセラー
太田 正己		皇學館大学社会福祉学部・教授
矢尾 和廣		福知山学園・施設長
岡場 芳紀		福知山児童相談所・相談係長
亀井 博幸		あやべ作業所・施設長
吉岡 圭寿		福知山公共職業安定所・就職促進指導官
淀井 泉		綾部市立綾部小学校・教諭(通級担当)
水嶋 彌生		綾部市立綾部小学校・教諭(通級担当)
塩見 豊		綾部市立綾部小学校・教諭(通級担当)
島田 蓉子		綾部市立綾部小学校・教諭(通級担当)
亀井 和博		綾部市立綾部中学校・教諭(通級担当)
足立 節子		福知山市立惇明小学校・教諭(通級担当)
荒木 淑子		福知山市立惇明小学校・教諭(通級担当)
奥村 康枝	特別支援教育士SV	福知山市立昭和小学校・教諭(通級担当)
福井 伊津子		福知山市立昭和小学校・教諭(通級担当)
由良 涉		福知山市立昭和小学校・教諭(通級担当)
片山 邦彦		福知山市立昭和小学校・教諭(通級担当)
西村 竜明		福知山市立南陵中学校・教諭(通級担当)
藤原 優子		中丹養護学校・副校長
尾崎 澄子		中丹養護学校・総括主事 地域支援センター長
井上 悦子	臨床発達心理士	中丹養護学校教諭(教育相談担当) 地域支援コーディネーター
南田 高典		中丹養護学校・教諭(自立活動担当) 地域支援コーディネーター
渡邊 淳夫		中丹養護学校・教諭(自立活動担当) 地域支援コーディネーター
岡本 明生		中丹養護学校・総括主事
碓井 英善		中丹養護学校・総括主事
山中 浩之		中丹養護学校・教諭(自立活動担当)

桐村 裕子		中丹養護学校・教諭(自立活動担当)
由良 真理		中丹養護学校・教諭(自立活動担当)
西垣 博		中丹養護学校・教諭(自立活動担当)
三宅 禎一	特別支援教育士SV	中丹養護学校・教諭(自立活動担当)
片山 千枝子		中丹養護学校・教諭(自立活動担当)
善積 泰元		中丹養護学校・教諭(自立活動担当)
倉ヶ市裕美佳		中丹養護学校・養護教諭
栢分 千晶		中丹養護学校・教諭(進路指導部長)

◆中丹教育局(舞鶴市)(舞鶴養護学校相談支援チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
四方 あかね	医師(小児科)	舞鶴こども療育センター・小児科医長
國澤 正寛	医師(精神・神経科)	舞鶴医療センター・臨床研究部長
太田 正己		皇學館大学社会福祉学部・教授
三田村 啓子	言語聴覚士、臨床心理士	京都府言語聴覚士会・会長
塩見 晴紀	心理療法士	舞鶴医療センター
村瀬 敏則	臨床心理士	京都府総合教育センター北部研修所・研究主事兼指導主事
大泉 邦暉		舞鶴障害児通園施設さくらんぼ園・園長
堀江 久美子	保健師	舞鶴市保健福祉部児童・障害福祉課・主査
鈴木 令子		地域生活支援センターみずなぎ・センター長 コーディネーター
桑原 守朗		舞鶴公共職業安定所・所長
山口 幸子		中丹教育局・指導主事
森岡 伸一	特別支援教育士	舞鶴市立倉梯小学校・教諭(通級担当)
羽柴 千秋	特別支援教育士	舞鶴市立倉梯小学校・教諭(通級担当)
田中 幾巳		舞鶴市立倉梯小学校・教諭(通級担当)
中村 羊子	特別支援教育士	舞鶴市立明倫小学校・教諭(通級担当)
米田 典子		舞鶴市立明倫小学校・教諭(通級担当)
村上 恵子	特別支援教育士	舞鶴市立明倫小学校・教諭(通級担当)
津島 徹		舞鶴養護学校・非常勤講師 地域支援センター長
荒木 淳子	特別支援教育士、言語聴覚士	舞鶴養護学校・教諭 地域支援コーディネーター
丸山 肅		舞鶴養護学校・教諭 地域支援コーディネーター
後野 雄一郎		舞鶴養護学校・教諭(自立活動言語指導担当) 地域支援コーディネーター
渡邊 利行		舞鶴養護学校・教諭(自立活動運動発達担当)
山下 浩二		舞鶴養護学校・非常勤講師
蘆田 真理子		舞鶴養護学校行永分校・教諭
村上 知之		舞鶴養護学校北吸分校・教諭

◆丹後教育局(与謝の海養護学校相談支援チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
四方 あかね	医師(小児科)	舞鶴こども療育センター・小児科医長
有賀 やよい	医師(精神科)	府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院神経内科・嘱託医
繁成 剛		近畿福祉大学社会福祉学部・教授
沖上 みゆき		障害者生活支援センター結(ゆい)・コーディネーター
磯野 ゆかり		障害者生活支援センターかもめ・主任相談員
平井 英男		峰山公共職業安定所・総括職業指導官
伊藤 信也		京丹後障害者地域生活支援センターもみの木
竹中 龍平		福知山児童相談所・判定指導係長
小牧 千里	特別支援教育士	宮津市立宮津小学校・教諭(通級担当)
糸井 恵子		宮津市立宮津中学校・教諭(通級担当)
九鬼 崇	特別支援教育士	京丹後市立峰山小学校・教諭(通級担当)
村上 富美子		京丹後市立大宮第一小学校・教諭(通級担当)
志水 希代美		京丹後市立網野北小学校・教諭(通級担当)
寺田 政子		京丹後市立間人小学校・教諭(通級担当)
荒木 良子	特別支援教育士	京丹後市立鳥取小学校・教諭(通級担当)
村野 ひろ子		京丹後市立佐濃小学校・教諭(通級担当)
岡田 志朗		伊根町立伊根小学校・教諭(通級担当)
青木 伸代	特別支援教育士	与謝野町立加悦小学校・教諭(通級担当)
田崎 由美子		与謝野町立岩滝小学校・教諭(通級担当)
土井 豊	特別支援教育士	与謝野町立三河内小学校・教諭(通級担当)
今井 俊行		与謝の海養護学校・総括主事 地域支援センター長
中西 満壽美		与謝の海養護学校・教諭 地域支援コーディネーター
伊藤 和子		与謝の海養護学校・教諭 地域支援コーディネーター
渋谷 道典		与謝の海養護学校・教諭 地域支援コーディネーター
芦原 孝野		与謝の海養護学校・教諭
篠原 勇		与謝の海養護学校・教諭

宇治川 博一		与謝の海養護学校・教諭
小長谷 ルミ	言語聴覚士	与謝の海養護学校・教諭
日下部みはる		与謝の海養護学校・教諭
坂根 斉美		与謝の海養護学校・教諭
松村 平八郎		与謝の海養護学校・教諭
栢田 恵子		与謝の海養護学校・教諭

◆視覚障害(盲学校巡回相談員活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
森上 和		盲学校・副校長 地域支援センター長
土井 恵二	歩行訓練士	盲学校・教諭 地域支援コーディネーター
藤井 則之	点字技能師	盲学校・教諭
岸 博実		盲学校・教諭
安井 正明	点字技能師	盲学校・教諭
竹内 百合子		盲学校・教諭
大谷 智子		盲学校・教諭
猪子 照	歩行訓練士	盲学校・教諭

◆視覚障害(盲学校舞鶴分校巡回相談員活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
大石 博文		盲学校舞鶴分校・総括主事
浅奥 秀子		盲学校舞鶴分校・教諭 地域支援コーディネーター

◆聴覚障害(聾学校巡回相談チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
高田 幸二		聾学校・副校長 地域支援センター長
細矢 義伸		聾学校・教諭 地域支援コーディネーター
佐藤 貞雄		聾学校・総括主事
菅沼 世江		聾学校・総括主事
柴野 佳志子		聾学校・総括主事
酒井 弘		聾学校・総括主事
小宮山 邦枝		聾学校・教諭
米田 恵子		聾学校・教諭
湯朝 貴子		聾学校・教諭
脇中 起余子		聾学校・教諭
水口 修三		聾学校・教諭(通級担当)

◆聴覚障害(聾学校舞鶴分校巡回相談チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
芦田 雅哉		聾学校舞鶴分校・教諭 地域支援コーディネーター
飯田 浩之		聾学校舞鶴分校・総括主事
栢分 佳子		聾学校舞鶴分校・総括主事
庄 里美		聾学校舞鶴分校・教諭(教育相談担当)
西垣 志津嘉		聾学校舞鶴分校・教諭(通級担当)

◆病弱(城陽養護学校巡回相談チーム活用)

氏名	専門資格等	所属・職名
宮野前 健	医師(小児科)	南京都病院・副院長
徳永 修	医師(小児科)	南京都病院・小児科医長
有賀 やよい	医師(精神科)	府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院神経内科・嘱託医
西田 利昭		南京都病院・療育指導室長
楠本 祥子	臨床心理士	南京都病院・児童指導員
岩見 政勝		城陽養護学校・総括主事 地域支援センター長
村田 尚美	特別支援教育士	城陽養護学校・教諭(地域支援部・通学高等部) 地域支援コーディネーター
森下 洋子		城陽養護学校・教諭(地域支援部・重心教育部)
佐藤 教		城陽養護学校・教諭(地域支援部・重心教育部)
中上 瑞恵		城陽養護学校・教諭(地域支援部・病弱教育部)
山崎 雅美		城陽養護学校・教諭(地域支援部・病弱教育部)
大森 直也	臨床発達心理士	城陽養護学校・教諭(地域支援部・通学高等部)
坂井 富士子		城陽養護学校・教諭(地域支援部・通学高等部)
福田 悦子	看護師、保健師	城陽養護学校・養護教諭(地域支援部)